

○議長（小林哲雄）

日程第9 議案第24号 平成27年度開成町一般会計予算から、日程第15 議案第30号 平成27年度開成町水道事業会計予算までを開成町議会会議規則第36条に基づき一括議題といたします。

町長に、平成27年度開成町当初予算提案趣旨説明を求めます。

町長。

○町長（府川裕一）

趣旨説明の前に、昨年と同じなのですけれども、4年間を振り返り、また所信表明も含めた話を先にさせていただいた中で趣旨説明に移らせていただきたいと思いますけれども、よろしいでしょうか。

○議長（小林哲雄）

許可いたします。

○町長（府川裕一）

ありがとうございます。

町長になって4年がたとうとしております。簡単に、ちょっと振り返ってみたいかなと思います。

4年前、3月11日、東日本大震災がありました。多くの皆さん、私も含めて、テレビにくぎづけになったのではないのでしょうか。あの津波の映像、脅威、それを見て、やはり開成町も大丈夫なのかと多くの町民の皆さんが思われたのではないかと。そういった中で、私は町長にさせていただきました。やはり最優先課題として、開成町の町民の皆さんの命にかかわる安全、防災について、きちんと見直しをしないといけないと思っています。

開成町は、小田原の海から酒匂川を上っても大体10キロ以上、海拔は40メートルから60メートルにあるということで、津波の影響はほとんどないだろうと。そのかわり、隣に流れる酒匂川、平成19年には十文字橋が落ち、平成22年にはパークゴルフ場も冠水をしたという。近年のゲリラ豪雨によって、酒匂川の氾濫、また浸水というものに多くの町民の皆さんが不安を持っていたと。これをきちんと防災計画の中に盛り込んで進めていかなくてはいけないという中で、私は、この4年間、進めてきました。

町民の皆さんに命にかかわる大事な情報をきちんと伝えないと、これは、どのように逃げたり、どこへ逃げたりがわからないということで、今は防災無線がありますけれども、聞き取りにくいというのは多くの皆さんが実感をしておりますので、難聴対策として防災ラジオや、また自分で電話をかけてテレホンサービス、また携帯電話を持っている方が多いのでメール、またテレビを使って文字情報、さまざまな情報伝達手段を整備してきました。

そして、地震に対しての訓練は多く毎年やってきましたけれども、新たに浸水訓練を実施させていただきました。また、一時避難所として地元の多くの企業の皆様の力をかりて、トルク工業さんからエース物流さん、先進研究所、パナック工業さんをはじめ、

一時避難所として民間の企業の皆さんとも浸水時の避難所としての協定も結ばせていただきました。さらに遠く北海道幕別町、これはパークゴルフの縁もありまして、災害時の応援協定を結ばせていただきました。そして、つい2月ですか、岡野自治会と上怒田の自治会との共同の浸水時の避難訓練、この4年間でここまで持ってくることもできました。

しかし、昨日も議員の皆さんから質問がありましたけれども、地震、水害、さらに富士山の噴火が今、きちんと対応しなくてはいけない、そういうときにも入ってきました。なかなか、これは町単独でできる問題でもないのですけれども、過去の歴史から見ても、酒匂川が浸水したというのは、やはり300年前の宝永噴火のスコリアが酒匂川に流れ込んで、それが大雨によってあふれ開成町が浸水をしてしまったと。そういう長い歴史がありますので、やはり水と富士山噴火に関しては、改めていろいろな歴史をひもときながら、県や国、また2市8町の協力を得ながら防災体制をきちんと整備をしていくと。これは、2期目以降、ぜひさせていただきたいなと思っています。そういった中で、4年間、ほかにもいろいろありますけれども、一番、命にかかわる大事なことだと思って、最重要課題として、この4年間、取り組んできました。

そういった中で、一生に一度しかめぐり会うことのない町制施行60年という、つい先日の2月1日、記念日を迎え、また、これを多くの皆さんの協力を得て盛大に開催することができたということは、大変うれしく思っています。このような機会にめぐり会って、そういう町長をさせていただいたということを改めてうれしく思っています。これが盛大に開催されたからいいということではなくて、もう、これは1年以上前から、町制施行60周年を契機に開成町の新たなスタートの日と位置づけていろいろ準備をしてきました。

その準備の最大の一つが、開成町のブランドの価値を高め外に発信していけるように、ブランディング戦略というものをプロジェクトチームをつくって準備をしてきました。その一つの成果の発表として、当日、新しいロゴマーク、あじさいちゃんの新しいキャラクター、図柄、開成町を一言であらわす言葉「田舎モダン」、そういうキャッチコピーもつくらせていただきました。これも、まだスタートに立ったばかりです。開成町に眠っている宝をもっともっと掘り起こして、価値を高めて、ブランドを高めて、それを外に発信していくのは何のためかという。開成駅周辺に26ヘクタールの区画整理ができて、ここに、できるだけ早く移り住んでもらう。特に、若い世代の人たちに。そのためのブランディングをつくらせていただきました。

それに、さらに価値を高めてプラスアルファをしていく、それが27年度予算と考えています。その27年度予算のキャッチコピーは、「将来を担う子ども・子育てで応援予算」と名づけさせていただきました。若い世代の人たちに移り住んでもらって、子どもを生んで育てやすい町、そういうブランドのある、価値のある開成町にしていかななくてはならない。そのためには、子育て支援を今以上に充実をさせていく。そして、新しく入ってきていただく方に、子どもの教育、開成町の子どもの教育は、ほかの町とは違う、そのような教育の質の高い開成町にしていく、この二本立てがブランディングの中にさ

らにプラスアルファして開成町の価値を高めていく、そのための27年度予算という考えでつくらせていただきましたので。

一つ目の子育て支援を充実するために、小児医療費を6年生まで拡大して子育てしやすい援助をする。また、子どもの放課後児童クラブ、これも4年生まで拡大をしていく。いろいろな手段を通じて、また駅前には子育て支援センターも、二つ目ですけれども、常設の支援センターも設置をしていく。それ以外にも町の体制として、教育委員会の中に子育てが一本化できるように、幼稚園、保育園に分かれているところを子育て支援室という形で、この4月から町の役場の体制も変えていくと。あらゆる体制、施策を子どもに関して27年度から重点的に取り組むことによって、できるだけ早く南部地区に若い世代の人たちに移り住んでもらうようにしていきたいと思っています。

二つ目の教育、子どもたちの教育に対して、学力も大事です、体力も大事です、心の問題、道徳心も含めて、この三つがきちんとバランスのとれた子どもたちを開成町から世界に羽ばたけるように。そのためには、今ある学校の先生による教育の質の向上はもちろん、それ以外として体験教育。子どもたちには、開成町にいろいろな人材の人がおられます。開成以外にもあるのですけれども、例えば、富士フィルムの先進研究所があって、そこには研究員の皆さんがいる。研究員の皆さんに、今も夏休み、科学の実験をやっけていただいております。酒匂川の歴史を定年になってから研究している、そういうグループの皆さんもおられる。開成町の歴史をきちんと子どもたちに伝える人たちもおられる。開成町は人材豊富だと思うのです。

それ以外にも、大学、高校、開成町には吉田島高校があります。今でも花を使って、子どもたちにいろいろな指導もしていただいている。これから、もうすぐ、あじさい公園の舞台棟の横の水路に小水力発電装置が今はもう設置ができていますので、もうすぐ皆さんにお披露目もできると思いますけれども、子どもたちに科学的な目を向けてもらえるように。せっかく小水力発電装置ができて、水からエネルギーが生まれるという、そういう目に見える形はつくりますけれども、もっと自分たちで子どもたちが実験的にできるように。例えば、この近くに城北高校があります。機械科、電気科があるのです。子どもたちのための水を使ったキットをつくってもらえないか、そういう話も今しておりますけれども、開成町になれば外の力をかりて。大学は、東海大学もあります。

さらに、開成町は神奈川県で一番小さくて山も海もない。なければ近隣にあるところに行けばいい。今年度予算にも入れましたけれども、真鶴町に開成町の子どもを連れて行って海の観察のできる授業もできる。真鶴の子どもたちは田んぼがないので、開成町に来ていただいて一緒に田んぼをやるなり。子どもたちの教育のためにいろいろな手段を講じて、開成町の教育の充実を図っていきたい。最終的には、土曜日に授業としてやっていけるようにプログラムをつくっていききたいと。この近辺には幾らでも、その素材があると思っています。それを使った体験教育というものを子どもたちに投げかけることによって、学校の勉強プラス心の成長にも私はつながるのではないかと。子育て支援と子どもの教育、これを27年度以降、予算化をし、また、これを将来へ向けて続けていくと。そのような形で、これから開成町の子どもたちの元気な声が響きわたる町にし

ていきたい、そういう元気な町にしていきたいと思っています。

昨年から総合計画がスタートして、日本一元気、きれい、健康な町を目指していきたい。元気のいいというのは、子どもたちの元気な声、地域も元気になっていただく。自治会活動が活発で進んでいけるように、これからも自治会活動に対しては支援をしていきたい。きれいについては、再生エネルギー、小水力発電をやりますけれども、来年度では開成小学校と文命中学校の屋上にソーラーパネルをつけて太陽光発電、これもやっていきたい。

健康については、昨年と同様に、1年で終わることなく、皆さん方がきちんと健診を受けてもらえるように、また健康予防のために血圧に対して関心を持ってもらえるように、10分間、体を動かしてもらえるように、これは引き続き昨年と同じように、またポイントラリーとして健康づくりをやっていきたい。健康のためにやはりスポーツが大事ですので、例年と同じようにチャレンジデー。今年は14年ぶりに町民体育祭を復活させていただきますので、自治会活動とともにスポーツ、それぞれの地域できずなを深めていただけることができるように、町民体育祭を復活させていただきたいと思っています。

今年1年、年度が変わっても、町制60年、1年間、開成町の元気のためにやっていきたいと思っていますので。27年度も、さまざまなイベントを考えております。一つは、昨年、あじさい祭に開成町と同じ名前の関取魁聖、大好評でした。今年は、関取の友綱部屋の練習を見学して大相撲を見て、そういうツアーも考えていきたい。子どもたちも、親子の体験ツアー、消防もあります、小田急もあります、いっぱい、いろいろな親子で体験ツアーができるようにと、特に夏休みに集中して、この辺は企画をし、やっていきたい。1年間、「60周年」を冠に、開成町を27年度も元気な町にしていきたい。

予算をこれから審議していただくわけですがけれども、そのような方向で27年度予算、つくり上げましたので、皆さん方に、また、これから趣旨説明、これからちょっと長いですがけれども、20分ほど聞いていただかなくてはいけないと思いますけれども、説明をさせていただきますので、その前の話ということでちょっと時間をいただきましたので、ぜひ1年間、よろしくお願いいたします。

それでは、平成27年度開成町当初予算提案趣旨説明ということでさせていただきます。

平成27年度開成町当初予算の提案に当たり、町を取り巻く状況の認識と町政運営に対する所信及び施策の概要を報告いたします。

平成27年度の日本の景気は、個人消費などに弱さが見られるものの、穏やかな回復基調が続いており、雇用・所得環境の改善が続く中で、各種政策の効果もあって穏やかに景気が回復していくと見込まれております。

政府は、大震災からの復興を加速させるとともに、デフレからの脱却を確実なものとし、経済再生と財政再建の双方を同時に実現していくために、「経済財政運営と改革の基本方針2014」及び「日本再興戦略」改訂2014」を着実に実行するとしてお

ります。県においては、消費増税延期の影響とともに、少子高齢化の一層の進展を背景とした社会保障制度の動向等にも引き続き注視していく必要があるとされております。また、国の好循環実現のための経済対策により、好調な企業収益を設備投資の増加や賃上げ、雇用環境のさらなる改善等につなげることにより、地域経済も含めた経済の好循環のさらなる拡大に期待するとされております。

平成27年度予算は、このように社会経済状況が大きく変化する中での編成といたしました。平成27年度は、第五次開成町総合計画の計画期間の3年目となります。南部地区の土地区画整理事業がおおむね完了し、そこで生み出された税収を次代の開成町を担う子どもたちを安心して生み育てることができる、子育て支援と教育を中心とした「将来を担う子ども・子育て応援予算」といたしました。

一般会計予算の総額は50億3,699万1,000円で、前年度に比べ1.5%、7,216万2,000円の増となりました。これは、主に教育環境の充実のため、開成小学校の運動場を大規模改修することによるものであります。歳入では、町税が7,140万増の26億7,422万1,000円で、対前年度伸び率2.7%となり、歳入総額の53.1%を占めております。

内訳としましては、個人町民税は、ほぼ前年度並みの10億50万2,000円であります。法人町民税は、1,575万円増の1億1,124万円の歳入を見込んでいます。また、固定資産税は、南部地区の使用収益開始に伴う土地分が増収となり、5,347万4,000円増の14億2,574万9,000円であります。地方消費税交付金は、平成26年4月の消費税率の引き上げの影響が通年となることから、6,500万円増の2億5,000万円としました。

地方交付税は、平成26年度に引き続き普通交付税交付団体となる見込みで、地方消費税交付金の増額の影響を考慮し、普通交付税は6,000万円減の2億1,000万円とし、特別交付税を加えた地方交付税全体では2億3,000万円の交付を見込んでおります。国庫支出金は1,577万4,000円減の5億3,288万3,000円としました。このうち、社会資本整備総合交付金などの土木費国庫補助金は5,999万1,000円、民生費国庫補助金は4,017万3,000円を見込んでおります。県支出金は、市町村自治基盤強化総合補助金の対象事業の増などから、4,515万6,000円増の3億4,953万2,000円としております。

繰入金金は、財政調整基金の繰り入れを大幅に減らしたことから、4,888万5,000円減の1億3,263万1,000円を計上いたしました。主な内訳としては、開成小学校の運動場改修の財源として学校校舎等整備基金から3,000万円を繰り入れるほか、商工振興基金から248万円を繰り入れます。町債は、2,590万円増の4億60万円としております。主な内訳としては、地方交付税と密接に関連する臨時財政対策債は前年度より2,000万円減額の3億円、グリーンリサイクルセンター施設購入費の財源とする衛生費が4,760万円増の5,270万円であります。

歳出では、中・長期的な視点に立ち、これまでのまちづくりをさらにステップアップさせるための取り組みを進めます。目的別では、総務費は、前年度の開成町民センター

外壁等改修工事等が完了したことなどにより80万減の7億618万7,000円としました。民生費は、自立支援給付事業や小児医療費助成事業、保育所充実事業、児童手当等の給付費や委託料であります。前年度に引き続き、臨時福祉給付金給付事業及び子育て世帯臨時特例給付金給付事業に係る給付費や事務費を計上しております。国民健康保険特別会計や介護保険事業特別会計繰出金を増としたことから、全体では1,654万7,000円増の16億2,324万1,000円といたしました。

衛生費は各種健診や予防接種の経費、ごみ収集・運搬・処理などの経費であります。今年度はグリーンリサイクルセンターの施設購入があることなどから、4,302万5,000円増の5億2,176万4,000円といたしました。商工費は、町制施行60周年記念事業として行うあじさい祭や阿波おどりの実行委員会への補助金の増額などにより、387万1,000円増の6,449万9,000円です。土木費については、南部地区土地区画整理事業支援事業が完了することなどから、全体としては前年度に比べ6,983万4,000円減の5億9,278万6,000円となりますが、路面性状調査の結果に基づく町道補修事業などに積極的に予算を配分いたしました。

消防費は、災害対策事業費、情報伝達体制強化事業費、地域防災力強化事業費などで、小田原市への消防事務委託料の増などにより、3,722万4,000円増の3億1,491万4,000円になります。教育費については、開成小学校運動場改修工事や開成小学校、文命中学校への太陽光発電設備設置工事などで、1億3,047万8,000円増の6億5,296万1,000円となります。

性質別では、人件費は1,844万4,000円増の9億5,700万3,000円です。これは、県議会・県知事選挙や町長・町議会議員選挙の事務に従事する職員の手当や、5年に一度の国勢調査の調査員報酬の増などによるものであります。物件費は、1,257万4,000円増の7億9,286万9,000円です。これは、庁舎整備基本設計業務などを行うことによるものであります。扶助費は、小児医療費の助成対象を小学6年生までに拡大することや、保育所入所児童の増に伴う委託料の増などにより、5,986万8,000円増の9億7,485万1,000円です。普通建設事業費については、グリーンリサイクルセンターの施設購入や開成小学校の運動場改修工事、路面性状調査の結果に基づく町道の舗装工事などの事業を実施することから、前年度に比べて4,290万3,000円増の4億5,706万1,000円です。

特別会計の中では、国民健康保険特別会計が1億8,510万2,000円増の18億2,534万2,000円です。療養給付費は前年度並みですが、1件30万円以上のレセプトを対象に行われている保険財政共同安定化事業の対象が全てのレセプトに拡大されることに起因するものであります。下水道事業特別会計は、2,135万円増の6億4,490万6,000円です。これは、流域下水道事業費が増となったことによるものであります。介護保険事業特別会計は、要介護者などの増から介護サービス給付の増が見込まれることから、1億3,440万円増の9億9,629万円です。後期高齢者医療事業特別会計は、被保険者数の増加に伴い広域連合への負担金が増とな

ったことにより、1, 296万4, 000円増の1億7, 314万円です。このほか給食事業特別会計を合わせた五つの特別会計の総予算額は、3億5, 174万7, 000円増の37億2, 817万円であります。

それでは、平成27年度の予定事業の概要について、第五次開成町総合計画の八つの基本政策に沿って申し上げたいと思います。

一つ目として、町民主体の自治と協働を進めるまちということで。

防犯、防災、福祉、教育などの各分野で多様化している町民ニーズに対応し、町民同士の共助を大切にした町民主体の自治を進めるためには、これまで以上に町民、自治会、企業などの多様な担い手との協働によるまちづくりを進める必要があります。本年度も、自治会活動の活性化に向けた自治会交付金による財政支援を行います。このほか、自治会活動の拠点整備として、パレットガーデン自治会の地域集会施設を借り上げることとしております。また、NPO等公益活動団体の育成に大変効果的であった町民活動事業補助制度を延長し、引き続き町民公益活動の支援に取り組みを行います。

二つ目、未来を担う子どもたちを育むまち。

次代の社会を担う子どもたちを安心して生み育てられるように、良好な生活環境の提供など、子育て支援を推進していくことが必要であります。出産や育児の環境づくりとして、健康教育、健康診査、保健指導、家庭訪問等、妊娠中から乳幼児期までの一貫した母子保健サービスを提供いたします。また、子育てに関する不安や悩みを解消できるように講習会等を実施し、子育て親子の交流や情報交換の場を提供いたします。特定不妊治療費や不育症治療費について、一部助成を継続いたします。

本年度は、小児医療費助成事業として、通院費用の無料対象を小学6年生まで拡充いたします。子育て世代の負担を軽減し、子どもを生み育てやすいまちづくりを一層進めていきます。新たな試みとして、子どもたちが自由に思いのまま遊ぶことができる場所を提供するプレイパーク、通称「冒険遊び場」事業を実施いたします。また、乳幼児、その保護者が相互交流を行う場所を開設し、子育ての相談、助言、その他の援助を行う子育て支援センターについては、町内2カ所目として開成駅前に1カ所増やす準備を進めております。

放課後児童クラブについては、保護者のニーズに応え小学4年生まで受け入れることとします。のびのび子育てルーム事業については、幼稚園入園前の子どもたちの健やかな成長を支援し、保護者の子育ての喜びと共感が持てる仲間づくりを促進いたします。放課後子ども教室推進事業では、開成小学校と開成南小学校において放課後子ども教室を開催し、放課後の児童の安全で安心な活動拠点を設け、遊びや学びを通して児童の健全育成を図ります。

学校環境整備としては、開成小学校の運動場の改修を行います。低学年棟前の運動場には人工芝を植えるなど、子どもたちがのびのびと活動できる環境を整えます。

三つ目、健康を育み町民がいきいきと暮らせるまち。

日本一健康な町を目指して、健康づくりや保健予防の事業に取り組みます。本年度も高血圧予防を中心に、健康意識の向上と生活習慣病を予防し、健康寿命の延伸を目指し

て取り組みをいたします。また、新たに減塩対策に重点的に取り組むこととしております。自分の血圧を知るために「1日1回は血圧をはかろう」をスローガンに血圧測定の習慣化を図る取り組みや、運動の普及啓発のため日常生活活動時間を10分増やすことを目標として「プラス・テン」運動を進めます。また、健康を意識した生活改善のきっかけになるように、健康に関する事業への参加などでポイントを貯めて、抽せんで町の特産品などの賞品が当たる「健康づくりdeポイントラリー」事業を継続して実施をいたします。

胃がんの早期発見や予防のために、40歳から70歳までの5歳刻みの年齢の方を対象としたリスク検診を引き続き実施をします。本年度から、「開成町高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（第6期）」がスタートいたします。高齢者が安心して暮らすことができるように、認知症対策や生活支援サービスの総合的な展開に向け体制整備に努めます。

スポーツを推進するため、開成町総合型スポーツクラブを軸として、スポーツを通じた地域コミュニティの醸成を図りながら、誰もがスポーツに親しむことができる環境を整備いたします。そのほか、開成チャレンジデーを引き続き実施をします。チャレンジデーへの参加を通じて、町民の運動の習慣化や健康増進を図ります。

町制施行60周年記念事業として、町民体育祭を開催いたします。子どもからお年寄りまで全員参加で、誰もが楽しめる競技を用意いたします。

四つ目、安全で安心して暮らせるまち。

切迫性が指摘される地震や近年多発する水害などの災害に対し、防災・減災体制の強化が必要であり、町民、民間企業などを含め、幅広い防災体制の強化を進めます。本年度は、消防団員の装備を充実させます。防じんマスクやLEDヘッドライトなど、助成金を活用して整えます。昨年度に引き続き、災害時に指揮をとれる地域の防災リーダーの育成を主体とした防災講座を開催し、災害時の対応力強化に努めます。また、災害時の対応策の一つとして、災害時要援護者の受け入れについて、新たな民間福祉施設の事業者との調整を進めます。災害時の拠点となる広域避難所である開成小学校と文命中学校に太陽光発電設備を設置いたします。

防犯対策においては、町民が安全で安心して暮らせるよう防犯体制を強化します。設備面の整備だけでなく、防犯パトロールを実施している地元有志の安全サポーターなど、地域の組織と連携しながら防犯体制を強化していきます。

交通安全対策としては、子どもたちの交通安全意識の向上を図るため、引き続き小学校4年生を対象に、自転車運転免許証の交付事業や自転車の安全な乗り方教室を実施いたします。

五つ、自然が豊かで環境に配慮するまち。

地球温暖化対策やエネルギー対策などから原子力や化石燃料に頼らない新エネルギーへの転換が求められており、環境に配慮した取り組みを進めます。今年度は、グリーンリサイクルセンターの施設を購入し、新たな管理運営体制で安定稼働を確保し、資源循環型社会の構築を確実に進めます。また、さらなる生ごみの減量化を目指し、生ごみ処

理器の設置推進制度に加え、水切り三角コーナーのモニター調査を実施いたします。エコバリューセット補助制度を継続し、電力使用の効率化が可能となる家庭内のエネルギー管理システムであるHEMSを導入する町民に対して設置費の補助を行います。

日本一きれいな町を目指し、清潔で美しいまちづくりのため、町民、自治会、企業などと連携し、地域の環境美化運動として引き続きかいせいクリーンデーを実施し環境美化の啓発に努めます。南部地区の土地区画整理事業がおおむね完了し、新たに五つの公園が完成をしました。これらの公園を含め、利用される方が快適な時間を過ごせるよう、年間を通じてきれいな状態で維持できるよう管理を工夫してまいります。

六つ、都市の機能と景観が調和するまち。

平成26年3月に足柄紫水大橋、また6月に都市計画道路山北開成小田原線が開通したことに伴い、町内道路の利用者や開成駅の利用者数も増加しています。このため、安全面や機能面を考え、開成駅東口ロータリー改修工事及び都市計画道路和田河原開成大井線の源治橋のかけかえ工事に着手をいたします。このほか、路面性状調査の結果に基づき、町内の道路の補修整備も安全面を考慮しながら順次進めていきます。

南足柄市と連携して、産業集積を目指し、足柄産業ビレッジ構想の調査を実施いたします。上下水道については、道路整備にあわせて整備を進めます。特に上水道に関しては、耐震改修のための高台第1浄水場のポンプ井更新工事や配水ポンプ制御盤改修工事などを行い、水道水の安定供給の確保を図ります。北部地域のあじさい農道については、きれいなあじさいの花が咲き、あじさい祭が盛り上がるよう、引き続き植えかえや施肥を行い適切な管理に努めます。

七つ、個性豊かな産業と文化を育成するまち。

個性豊かな町の産業を育成するため、農業や商工業の活性化を図ります。農業を持続性あるものとするため、所得の向上などが図れるよう農業者が食品加工や流通、販売などの他産業と連動し新たな産業を創出するなど、引き続き農業の6次産業化に取り組みます。農産物などのブランド化や商品化を行う団体等への補助やブランド認定を拡大いたします。商工業の活性化を図るため、北部地域にあるあじさい農道とあしがり郷瀬戸屋敷を拠点として、引き続きあじさい祭を開催します。目で見ると観光だけではなく体験農業などの体験型観光も取り入れ、地元企業と連携しながら開成町に親しみを持ってもらえるようなイベントを実施いたします。あしがり郷瀬戸屋敷を中心とした北部地域を交流、観光の拠点とする整備を進めるため、瀬戸屋敷周辺整備基本設計を実施し、地域の活性化や地場産業の発展を図ります。

八つ、効率的な自治体経営を進めるまち。

魅力ある地域づくりを進めていくためには、政策形成の担い手である職員の能力向上が必要であります。政策形成やさまざまな行政課題に対応できる活力ある職員を育成するため、協働のまちづくりのための職員研修をはじめとして、引き続き職員向けの各種研修を実施いたします。

有権者の利便性の向上を図るため、本年4月に執行される県議会議員・県知事選挙から投票所を1カ所増設をいたします。行政機能の充実や災害時の防災拠点機能を維持す

るという観点から、拠点となる施設の整備が必要です。役場庁舎は建設されて40年以上が経過し、老朽化やバリアフリーがされていないなどの課題があります。役場庁舎の整備を進めていくため、本年度は庁舎整備基本設計を実施いたします。

開成町らしい子ども・子育て支援施策を推進するため、保育所及び幼稚園等の子育て支援に関する業務を一元化し、より一層、地域の子育て支援など子ども・子育て施策の充実を図ることを目的に、教育委員会事務局内に子ども・子育て支援室を設置いたします。

以上、平成27年度当初予算に盛り込んだ施策の概要について述べさせていただきました。

足柄紫水大橋や都市計画道路山北開成小田原線の開通など、町を取り巻く環境は大きく変わろうとしております。より多くの皆さんに開成町を知ってもらい、そして、よいイメージを持ってもらうことが必要であります。5月には、東アジア地域の国際文化交流などについて国内外の学術研究者が集い、発表、討論する大規模な国際学会「東アジア文化交渉学会 in 開成」を開催いたします。

「日本一元気な町」、「日本一きれいな町」、「日本一健康な町」をキーワードに、今日より明日、明日より明後日、そして、その先へと、もっともっと元気な町にしていくことが私の責務であると考えております。本年度は、町制施行60周年に当たり新たなスタートの年であります。この60年の間に、町は発展し続けてきました。これは、法人や町民と一体となってまちづくりを進めてきたたまものであります。都市計画を徹底し、長期ビジョンに立って斬新的に進めてきた成果と言えます。全ての町民が豊かな自然の中で健康で潤いに満ちた幸福な生涯を送ることができる社会を実現するため、「開物成務」の精神でまちづくりに邁進をしてまいります。

新年度の施策を進めるに当たり、議会の皆様には一層のお力添えをいただきますよう、よろしく願い申し上げます。

以上で、平成27年度開成町当初予算案の説明とさせていただきます。どうぞ、よろしくご審議をお願いいたします。